

バリー トゥロワー氏米国公立学校で WiFi 使用を禁止する方向への 改正宣言

(オレゴン州ポートランド地区の米国地方裁判所)

ポートランドの公立学校宛、

私バリー トゥロワーは、米国連邦法の偽証罪の罰則規定に則り、ここに、ポートランド公立学校での WI-FI の使用を禁じる仮処置、および永久差止命令を指示するため、次の宣言を行います。

私の経歴

1. 私は英国防省にて、1960年代初期のマイクロ波被爆のすべての側面（マイクロ波利用に関する健康被害の危険性も含む）を網羅する、放射線技術の訓練を受けてきました。
後の研究は、マイクロ波技術も組み込んだ、水中爆弾処分も含まれています。
2. 1960年代後期と1970年代の間、私の職務は犯罪者、テロリスト、そしてスパイの秘密（これまでの秘密）情報を抽出することでした。これには冷戦時のマイクロ波技術も含まれていました。
3. 私の最初の学位は、マイクロ波に特化した物理学です。私の第二の学位は、研究の学位です。私は、人間の生理学における教育の卒業証書を持っています。引退前に、私は南ダートムア大学で高度な物理学と数学を教えました。
4. 私は、放射線研究機関と H.E.S.E.プロジェクト（人間の生態社会経済学）の科学顧問です。
5. 私は英国とウェールズ地区の、両方の警察連盟や公共・商業サービス連合のためのテトラレポートの著者です。

6. 2010年4月に、私はボツワナ国王のためにスピーチを行いました。

http://www.magdahavas.com/wordpress/wp-content/uploads/2010/08/Barrie_Trower_SA.pdf

dpress/wp-content/uploads/2010/08/Barrie_Trower_SA.pdf.

私はこれらに関して、本参考資料に、私の意見や知見を組み込みます。

7. 仕事は完全に無償で行われ、私はこの研究を行ってきた間、個人または組織から金銭を受け入れたことはありません。私自身、完全に独立しております。

8. 私は、新しい研究を追加／修正する権利を留保し、裁判の期間中にそれらを適用する権利を有します。

根源

9. 私の知る限り、「マイクロ波」や「ラジオ波」による健康被害の一番最初の報告は、1932年8月まで遡ります。重度の疲労感、倦怠感、睡眠障害、頭痛、免疫力低下、および感染症などに対する高い感染率の症状などが報告されました。これらの症状は比熱性の電波からの症状であることが報告されました。比熱性電磁波症状の事を、時にサブサーマル、またはマイクロサーマル効果と呼ばれております。

10. 1971年、アメリカ海軍医学研究所（NMRI）は、2300以上の研究論文の中から、マイクロ波被爆、およびラジオ波被爆に起因する120項目以上の障害や病気のリストを参照しました。

報告されている生物学的現象（効果）と臨床症状の伝記は、マイクロ波やラジオ波被爆の研究報告書に帰属します。（参照 レポート No.2 NMRI、国立海軍医療センター（1971）MF12.524.015-0004B。

情報公開法の下で、公開された米国アメリカ国防情報局（DIA）のドキュメントによると、アメリカ海軍医学研究所（NMRI）の研究を参照して、こう述べました：西側のより多くの先進国が、被爆許容基準の施行で厳格であれば、工業利益と軍事的機能を保護するために、または軍事従業員からの訴訟を避けるために、工業生産と軍事機能に好ましくない影響がある可能性があります。これは、欧米の政府が工業生産と軍事機能に適合した安全性なレベルを選択したことが示唆されました。政府は、非熱性（サブサーマル）の基準レベルを否定せ

ずに採用しました。そして今日まで、非熱性（サブサーマル）基準レベルからの健康被害の影響を否定し続けています。

（参照文献：DIA 文書：（1972 から 1983）DST- 1810S- 076 から 76、ST-c5-01-169-72、DST-18105-074-76）

11. 1975 年に、アメリカ国防情報局（DIA）は、広範囲な研究をした後、マイクロ波健康被害に、癌や白血病、うつ病、自殺傾向、インフルエンザなどの健康被害が、低レベルのマイクロ波被爆からも危険性リスクがあると、職員全員に警告しました。

（電磁波被爆の生物学的効果（ラジオ波、マイクロ波） - ユーラシア共産主義国、国防情報局：DST-1810S-074（1976年3月））

12. 冷戦時代、ロシア大使館は、道路の反対側から何年もの間、低レベルのマイクロ波をモスクワの米国大使館に電磁波照射攻撃をしていました。なぜ、そしてどのような方法で行なわれたかは、この宣言の範囲外です。大使館員（男性と女性）とその子供達の両方に深刻な神経障害、流産、複数の癌/白血病や他の病気が発覚した後、ジョン R. ゴールドスミス医師は、この問題を調査するために派遣されました。この調査について、彼の報告書からマイクロ波の連続的、長期的な低レベル被爆がこれらの病気の原因であったことが判明しました。（1997年12月に発表された「環境健康展望」の1585ある文書の第105巻付録6の表8参照）。

ゴールドスミス博士は11の教授職を持ち、世界保健機関（WHO）のヨーロッパの代表でした。興味深いことに、このロシア大使館によって使用されたマイクロ波のパワーは、現代のトランスミッターで使われているパワーより小さかった場合もあります。

<平均で 0.02–0.05 μ W/cm² 最大で、5–18 μ W/cm²>

（ゴールドズワージーJR。47-57、1995：無線周波放射（マイクロ波）の軍事、放送中の健康への影響、および職業の研究、インターナショナルJ OCC および env 保健、1の疫学的証拠）

http://www.radiationresearch.org/goldsworthy_bio_weak_em_07.pdf。健康と生殖能力への博士ゴールドスミスの警告：

<http://omega.twoday.net/stories/1755556/>。

13. 冷戦時の私のスパイ任務の事実報告としては、多様性のある、ステルスマイクロ波交戦と通信システムに関しての軍事教育を受けたことです。そうすることで、私は約50項目以上の身体的、精神的に共鳴影響／疾患を引き起こす、30以上のパルス信号のリストを学びました。

14. 通常のマイクロ波送信機が普及し始めた直後、住民達は神経障害疾患や身体的疾患を訴えはじめました。その後に癌も訴え始めました。

調査研究を専門とするフリーのスー・ウェブスターは、19塔の送信機から周辺データを取りました。見つかったのは約92の癌疾患です。(乳がん、甲状腺癌、腸癌、白血病

等々)。これらの患者の平均年齢はおよそ39才という若さでした。

(ワイヤレスノートPCからの健康危険性についてスー・ウェブスターの意見がCanceractive (英国の有名な癌研究機関) のICON誌の2003年1月号に掲載されました)。

<http://www.canceractive.com/s>

hop/product.php?productid=16157&cat=255&page=1)

15. 1997年に、マイクロ波の影響による疾患が具体的に記載され、それに関連する100以上のさらなる研究文書が参照されました。

(グラント、L.マイクロ波疾患、電気感度ニュース、第1巻ー6巻2号1-4(1997))

16. アメリカ ポートランド州の公立学校では、比熱性(Thermal)レベルに比べると被爆値は低いが、電磁波、特にマイクロ波が校内で放射され続けています。しかし、これらの被爆レベルは、自然世界の背景放射周波数レベルと比べると非常に高い値です。毎秒2.45GHz~5GHzで、それが意味するところは、毎秒20.45億から50億回周期しているということです。私は冷戦時代の兵器として使用されるものと同様の電力密度と周波数が、公立学校でWi-Fiとして使用されていたことに気づいた時、退職し、無償で世界中を旅して、将来的に問題になるであろうことを、正確に説明、広報する事にしました。

17. HAARP– High Frequency Active Auroral Research Program –

高周波活性オーロラ調査プログラム(HAARP) ハーブ は、元々、我々の大気圏への電磁波干渉を調べていた博士ロザリー バーテル氏によって調査されました。HAARPは、電磁波を大気圏より反射させ、この地球上の空気層や土地のどの部分にも影響を与えることができます。これは、ヒト、動物および植物の生理学的、および神経学的影響を引き起こす可能性を有します。

18. 逆説的には、マイクロ波照射が武器として使われ、健康被害、疾患、および死を引き起こすために使用できると同時に、通信機器としても使用することが可能です。したがって、WIFIの被爆は学校の子供達と教師にとって当然ながら安全とは言えません。そして、いまだに1950年代から継続している、ステルスマイクロ波兵器産業が存在しています。

19. 非電離放射線のための国際委員会 (ICNIRP) は、マイクロ波の分類を電磁周波数、300 MHz の 300 GHz の間での分類としています。

(ICNIRP ガイドライン、電磁界への被爆を制限するためのガイドライン、および電磁界 (300 GHz まで) 、保健物理 1998 年 4 月、巻 74、4、522、

www.icnirp.de/documents/emfgdl.pdf)

したがって、本報告書で議論されたすべてが、マイクロ波周波数帯域内にあることとなります。

20. マイクロ波はラジオ波に比べると、水分中心で構成されている私達人間の体には、非常に異なる反応をします。用語「無線周波数」とは、しばしばマイクロ波基盤の通信システムを説明するために使用されます。用語「無線周波数」は、ラジオ波単独で関連付けられている訳ではなく、むしろマイクロ波と主に関連しています。マイクロ波は、それらの優れた浸透特性のために、ラジオ波よりも、通信のために適切な媒介物です。浸透は、特に生きている組織に起こります、水分量が多い程、より吸収する特質で、マイクロ波は、ほとんどの住宅や、他の建物にも浸透／貫通します。

21. これらは一体何なのでしょう？

磁石の周りの磁界を想像し、そして日常浴びる静電気を想像してみてください。静電気からの電場と磁石からの磁場には波が出来ます。これが電磁波と呼ばれています。電磁波にはたくさんの種類がありますが、それらはすべて、磁場と電場の二つの性質から構成されています。これらの波の間の主な違いは、波長

の長さであります。それ故に、毎秒発生する波が、周波数と呼ばれます。すべての電磁波は、電磁スペクトルと呼ばれる帯域の内に含まれています。

22. この電磁スペクトルの一方の端にあるのが、非常に短い波の長さを有する、宇宙線、ガンマ線とX線であり、電磁スペクトルのもう一方の端には、非常に長い波、テレビやラジオ波などがあります。物理学者は時々、無線周波数スペクトラムを、さらに極端に低い低周波（ELF）まで持ってゆきます。これらは家庭内電気などで使われている周波数です。すべての電磁波は同じ基本的な性質を持っています、それらは、屈折、反射させることができ、すべて光の速度と同じ速度で移動します。もしあなたが電磁波でしたら、毎秒世界を7周も出来ることとなります。それは光の速度です。

電磁スペクトルは整理されており、波長が一番短い方から、宇宙線、ガンマ線、放射線、紫外線、可視光線、赤外線、マイクロ波、そしてラジオ波がもっとも長い波長となります。

紫外線と高周波は、電離波として知られています。そしてそれらは体に有害です。紫外線や可視光線よりも長い方が、ラジオ波側の電磁スペクトラムです。こちらもまた体に有害です。Wi-Fi システムのために使われるマイクロ波は、この値の電磁スペクトル側にあります。

それでは、詳しく説明していきましょう。

健康への影響

23. マイクロ波被爆によって引き起こされる障害や病気を広範囲に、慎重に研究している研究文書が世界中にあります。これらの論文は（何千にもおよぶ）低レベルの（比熱性以下の）マイクロ波被爆によって引き起こされる健康上の有害性を議論しています。それらの症状は、不整脈、心臓発作、細胞死、血液疾患、骨髄、脳腫瘍、DNA 損傷、細胞内におけるカルシウムレベルの変調、夜間のメラトニンの減少、免疫系の抑制、関節炎、リウマチ、皮膚の疾患、リンパ管疾患、膺分泌、血管系疾患、耳鳴り、白血病、小児がん、睡眠障害、集中力の阻害、頭痛、めまい、疲労、自殺傾向、流産、不妊、うつ病、神経過敏、記憶喪失などの精神的疾患があります。

24. そのような症状のいくつかは、心因性であると主張されています。

例えば、周辺住民の方々が、送信機の建立を見たとき、その後の健康上の問題は多くの場合、その送信機に起因していると考え、心理的に、その送電線が病気の引き金になったとみなされます。しかも、例えば周辺住民に事前告知無しに建立された送信機などもあります。その周辺でも同じような病状が現れているのです。さらに、同様の条件で動物が送信機に近いとき、観察された状況下での生体実験において動物は、上記のような思い込みの要素を持っていないにもかかわらず、人間と同じような反応（症状）が見られました。

25. 冷戦以降のマイクロ波技術における進歩は、並行実験を必要としました。何千にもおよぶ調査研究が存在し、それらは低レベルの、比熱性以下の照射でも、人間の全身体におけるすべての臓器に悪影響があると主張しています。おそらく、この現象の最も包括的な説明をしている書物は、インペリアルカレッジ ロンドンの A. ゴールズワージー博士の 「弱い電磁界の生物学的影響 (2007)」 でしょう。

[http : tinyurl.com/2nfujj](http://tinyurl.com/2nfujj) a.goldsworthy@imperial.ac.uk。

26. さらに先に行く前に、私自身の通信業界に関する研究についてコメントしたいと思います。2007年2月に、私はロンドンのグレート・オーモンド・ストリート病院で、子供への低レベルのマイクロ波照射と、癌に関する短いプレゼンテーションをするために招待されました。プレゼンテーションでのもうひとりのスピーカーは、ジョージ・カルロ博士でした。私は、カルロ博士と同じホテルの部屋であったため、ロンドンにいた2日間の間、何回か会話をする機会を得ました。カルロ博士は、携帯電話業界から、どのようにして商品についての研究依頼が来たのかを説明してくれました。彼の研究は、 (www.health/concerns.org) 2850万ドルの費用がかかり、200にもおよぶ研究機関の医師と15項目におよぶ疫学研究（1993年から1999年）に関与しました。カルロ博士は、我々のデータから、子供達の健康面のリスク、腫瘍発症の可能性、遺伝子の損傷、およびその他の健康問題への懸念が明らかであると力説していました。

27.

低線量マイクロ波照射の健康リスクのさらなる議論は、ベルン大学とスイス大学が、低レベルマイクロ波照射からの病気を含み、59項目におよぶ調査研究の統合データを発表しました。社会予防医学協会が結論づけまし

た：業界が資金を提供し、専門的に行なった研究は最大数の研究を報告しましたが、

統計的に有意な結果を報告するまでにはいたりませんでした。研究結果の内容は、スポンサーの意向を考慮する必要があるからです。

フス、A.氏、資金調達を踏まえた上での携帯電話の使用の健康への影響の研究の結果：実験的研究の系統的レビュー、(2006)、ベルン、Finkenhubelweg II、スイスの大学 (egger@ispm.unibe.ch)

28. さらに、産業医学ジャーナルは、モバイル通信業界の組合が、研究者達に

圧力をかけていたという事実を公開しました。これは、リスク評価における利害の対立と先入観から人体への影響を適切に評価できないことを示唆しています。

(Hardell、L.氏、産業およびがん研究、産業医学のアメリカジャーナル、利害の対立、(2006年) [ワイリー・リス株式会社] www.interscience.wiley.com;
オンコロジー、大学病院、オレブロ大学、スウェーデンの部。)

スウェーデン、イギリス、アメリカからのこれらの問題に関する例として、提示されています。

29. 通信業界の研究の試みにでは、自社の研究でさえ、健康への悪影響が立て続けに見つかりました。一つの例は、癌の発生および、癌の起因要素である高周波電磁界からの細胞への損傷の類を多数発見したと、世界的な疫学研究者が結論付けています。(T-Mobileの委託による、独自の製品)

(モバイル通信と健康、ECOLOG 研究所、セクション7、4月(2000)
(mailbox@ecolog-institut.de))

また、このドキュメントは、同じページにDNAの損傷についても説明していません。

30. 米国環境保護庁（EPA）が、電磁波被爆が（WIFI 被爆を含む）ヒト発癌性物質として分類されることを推奨している事は事実です。

（*米国環境保護庁、電磁界、外部評価ドラフト、第 EPA600/6-901005B、1990年10月の潜在的な発がん性の評価より。）

1990年以降の新しい多くの研究報告からしても、マイクロ波被爆からの発がん性は、確実にあることが言えると思います。

31. 相次ぐ被爆健康疾患の影響で、2002年10月9日に、医師のグループは、フライブルクの訴えを発表しました。

<http://omega.twoday.net/stories/555926/>

クラスタリストについては、下にスクロールします。リンクを参照してください。

当初は270の医療コンサルタント、科学者、薬事学会員や医師が署名し、それが今、数千もの世界中の方々の署名をもらっています。これは、低レベルのマイクロ波被爆からの病気の誘発に関する基準決定者への警告です。

このリストは、13項目もの慢性疾患や様々な障害の影響を示しています。

感染症や不眠、行動、血液、心臓、癌、偏頭痛、耳鳴り、感受性、それらのすべては、モバイル通信技術からの、マイクロ波パルスに起因するものです。

（ゲゼルシャフト Umweltmedizin Interdisziplinär）

<http://www.e-smog nrw.denews/skandal/wewelsburg/HESEProject>

FreiburgerAppell/elistenderunterschriftensammlungfurdenFreiburgerAppellArzte lists.htm)

32. 2002年9月に、ウィーン大学にて世界のトップ科学者の19名が、電磁波について議論をしました。この会合は、**カタールニア議会**として知られています。

彼らは、弱い、低強度の電磁波が人体／細胞へ影響するかもしれないかに関する議論はしないことを発表しました。

EUによる被曝限度認定レベルと、ICNIRPのガイドラインが示している電磁波被曝によって誘発される影響／効果に関しては、メカニズムの説明が可能です。

33. 携帯電話の基地局の近くにある学校、または学校敷地内に携帯電話の基地局が建っている学校が、職員や学生による疾患や障害のリストを公表しました。その中では、がん細胞の塊（クラスター）や、他の病気なども多数見つかりました。そのリストの中には47もの癌の塊（クラスター）を持つ職員や学生が見つかりました。（Schools and Cell Tower Antennas, 2003, <http://members.aol.com/gotemf/emf/schools.htm>; www.omega.tw oday.net/stories/55592)

34. 2003年11月付けの別の報告書では、138校もの携帯電話基地局が存在する学校の、参考データによりますと、流産、脳腫瘍、癌、乳癌、教師の体調不良などの疾患を示しています。フランスの領土四分の一を占めるサンシールレコール地域圏にある一つの学校では、その屋根の上に送信機を取り付けていました。その地区では8名の子供達の間で癌が確認されました。

35. スチュワート報告書2004では、携帯電話の送信機周辺の病気疾患の影響に関して、長期的に調査研究が行なわれていない事に関し、今後、真剣に追求／研究することを要求しています。このような事例証拠は、2002年7月に、わずか19箇所の携帯電話基地局の周辺で、92もの癌症状が報告されています。また同論文では、乳癌、甲状腺、腸や血液の問題なども報告しています。また、もちろん、多くの疫学的研究があり、それらのデータは、そのような病気やその他の有害性を一貫して示しています。

36. 2007年に、国際的な科学者のグループは、2000もの研究文書を精査、さらに多くの研究論文を調査しました。彼らは、屋外では $0.6 \text{ V/M} \sim 1 \mu\text{W/cm}^2$ の被曝レベルまでに抑えるよう勧告しています。屋内では、 $0.2 \text{ V/S} \sim 0.1 \mu\text{W/cm}^2$ 、そしてそれらは、低レベルのマイクロ波と細胞の相互作用に基づきます。この基準は、バイオイニシアチブレベルとして知られるようになりました。

そして以降、 $0.01\mu\text{W}/\text{cm}^2$ までに、10倍も基準値が下げられました。

37. EU-Reflex と呼ばれるプロジェクト、または欧州連合は、低周波電磁波被爆の危険性の評価にリスクがある主張しています。試験管を利用しての実験では、携帯電話の電磁波に照射された細胞は、WHOの被爆許容ガイドライン相当以下であっても、染色体への損傷が見られました。

38. ナイラ、ヒュッター、サンティーニ、オーバフェルド、バンベルク、ウルフなどの研究からはすべて、低レベルのマイクロ波照射から神経学的障害および/または癌、および/他の病気を増加させる結果が出ました。これらの研究の要約および詳細は、放射線研究トラストのウェブサイト上 (www.radiationresearch.org) で確認することができます。

39. 消防国際交流協会 は、職員の健康上の問題を危惧し、消防署内での通信基地局の設置利用に反対しています。

(消防国際交流協会：www.iaff.org/safe/content/celltower/celltowerfinal.htm)

40. 世界的に有名なアイルランドの医師会は、低レベルのマイクロ波からの危険性を示す70もの研究論文を記載しています。サンティーニ博士は20項目もの同様の研究を記載しています。EM放射線トラスト研究所は、9項目もの研究を記載しています。ブラックウェル博士は、報告書で6項目の同様の研究を記載しています。最終的に、4つの国際大学が、スペインで行なわれた研究結果を検証済みです。

そして、全ての論文において、これらの病気疾患を検証しました。スペインの研究の著者は、(スペイン研究のマイクロ波疾患/症候群さらなる研究、2004。) ICNIRPガイドラインより10万倍低い被爆基準、 $0.1\mu\text{W}/\text{cm}^2$ を推奨しています。研究報告書の著者の一人、ゲルトオベルフェルド博士は、ザルツブルク、オーストリアの公衆衛生庁のディレクターであります。彼は、研究によって作られた、屋内被爆に準拠するGSM周波数被爆の基準値を下げました。

(<http://www.ideaireland.org/emrresearch.htm>; サンティニーニ紙 2006年) ORG/PDF/Roger_SANTINI_Scientific_arguments_to_prove_application_of_precaution_principle_mobil_phone.pdf、グラハム博士。悪影響を示す6研究：
<http://www.starweave.com/masts/>; スペインの研究のマイクロ波症候群)

さらなる研究：

<http://www.hese-project.org/he> SE-UK/ EN /論文/ navarro%20045%20_p353%20-%の 20p358_.pdf

41. すべての疫学研究のリストや参照は、あまりにも広範囲過ぎて、載せる事が不可能です。2006年までに、マイクロ波被爆からWHO（世界保健機関）データベースリストの症状に対する疫学研究の80%が現存し、低レベルのマイクロ波から癌になる可能性が4倍にまで膨らむとの報告も含まれています。

(Guilmot, Jean-luc, WHO EMF Database, Watch - Understand - Act 26, Sept (2006), www.001be.cx.)

私は症状を示さなかった残りの20パーセントの人々を調査することにとっても興味を持ちました。しかし、これは既にスイスの科学者が調査をしており、記録や結果については、

調査資金提供者の了解を得る必要があると言っています。

その時すでに、マイケル メイジャー氏が（イギリスの環境大臣 1997年-2003年）いくつかの大学が、科学的な研究から結果を報告する際に良好な有利な結果を報告する契約を受け入れたとして、非難警告書を発表していました。同じ月に、米国下院議員ヘンリー・ワックスマン氏はサイエンティフィック・アメリカン紙において、科学は、産業界によって破壊されていることを示す、同様の報告書を発刊しました。

(<http://www.next-up.org/pdf/OpenLetterWHODrvanDeventer.pdf>;

Swiss Study on funding sources; <http://www.ehponline.org/docs/2006/9149/abstract.html>; Michael Meacher quote,

[http://www.epolitix.com/EN/MPWebsites/M](http://www.epolitix.com/EN/MPWebsites/Michael+Meacher/c8afdecc-b15e-41ad-b9cf-25354790d2dc.htm)

ichael+Meacher/c8afdecc-b15e-41ad-b9cf-25354790d2dc.htm,

Times 紙でも発刊 May (2004); Henry Waxman in The Scientific American,

[http://www.sciam.com/article.cfm?arti](http://www.sciam.com/article.cfm?articleID=0000FF81-A7DD-1084-A73E83414B7F0000)

cleID=0000FF81-A7DD-1084-A73E83414B7F0000 (May 2004)

42. 2011年4月には、非電離放射線防護 (ICNIRP) のロシア国家委員会が、次の項目を発表しました：

小児期、および若年者への電磁波被曝疾患を予防することは社会的にも経済的にも大変重要です。この問題は、すでに国際社会によって認知されています：2011年5月には、世界保健機関 (WHO) が、第二回目の国際会議「非イオン化放射線被曝と子どもの健康」を主催しています。子供への様々な周波数帯の電磁波被曝への健康を保護するために開かれる会議です。WHOの見解は、子供の方が被曝環境要因に対してより傷付けられやすく、弱いと公言しています。

人間の脳や神経系組織は直接電磁波を感知し、その強度にかかわらず反応します。そして特定の例では、電磁波変調に依存します。

科学的な査読、国内および国際的な出版物の分析、それと同様に、電磁波への実際の被曝人口数の分析など、10項目の基準を RNCNIRP へ策定することを許可しています。

(注意: 「EMF」とは、ラジオ波/高周波が含まれます)

人間の進化で歴史上初めて、脳は毎日、すべての発育段階で、変調された電磁波にさらされるようになってきています。

2. 子供の脳内の電磁波の吸収性は、大人の携帯電話の使用者より、より大きくなります。子供の脳内では、知的発達の役割を担う脳領域の部分も被曝されています。

3. 子どもの脳は発達を続けています。

8. 子供や、10代の若者のための、より安全な基準値に近い将来、最も必要とされてきます。成長過程の生体に関しては、慎重に考慮されるべきです。同様に、人間の生活や活動のための生体電気のプロセスの意義として、電磁波被曝の現

在と将来の状況、技術と技術開発の発展に関しては、法規制の正式な文書が策定されるべきです。

(RNCNIRP, Electromagnetic Fields From Mobile Phones: Health Effects on Children and Teenagers, (Italics added) April 2011, www.scribd.com/doc/55420788/Electromagnetic-Fields-from-Mobile-Phones-Health-Effect-on-Children-and-Teenagers)

43. 2011年5月6日に、欧州議会は、健康への理由から、ワイヤレスネットワークデバイス、および携帯電話の学校内での利用を、完全に禁止することを推奨する報告書を提示しました。

欧州評議会、(潜在的な電磁場の危険性や、環境への影響、議員、環境、農業とローカル、および地域情勢委員会
assembly.coe.int/documents/workingdocs/doc11/edoc12608.pdf)

この報告書では、若者が最も健康への影響を受けやすいことを指摘しています。議会は、可能な限り、合理的に電磁界への被曝を減らすため、あらゆる有効な措置を取る事を勧めております。議員達は、教育や保健当局に啓蒙活動を展開するように求めました。教師、両親と子供向けに、早期のリスクを回避するために、いくつかの地方当局、医療団体や市民団体は、携帯電話やマイクロ波を放出する他のデバイスの長期使用に警鐘を鳴らしました。

44. 結論としては、いわゆる、低レベルのマイクロ波被曝であっても、非常に深刻な問題になります。私は、強調します。体にまったく、なんの影響も受けずに、マイクロ波被曝を受けることは不可能です。低レベルマイクロ波被曝は、高レベルの放射線よりもさらに危険なのです。

45. 保留中の分析結果、追加のテスト、および直近で入手した膨大な資料などにより、私はこれらの新しい研究を追加する為に、修正する権利を留保します。

現行の規制および熱性作用

46. 国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP) および、国立放射線防護委員会(NRPB)、そして米国の連邦通信委員会(FCC)によって設定されたガイドラインは、世界中で一番安全基準に乏しいでしょう。サーマルベース(熱性に)基づくと、電気と磁気の波が、体の生理機能と相互作用する効果に関して、全く何の考慮も与えられていません。ある人が、送信機の真上に座っていない限り、ガイドラインを超える被曝値で、身体に熱を受けることは、不可能ではないにしても、非常に現実的ではありません。マイクロワット平方センチメートル単位のガイドライン、1800 MHzの送信機の最大レベル、これらのユニットが1,000個程。これとは対照的に、ロシアと中国では、これらのユニットを最大10個程持っています。トロントでは、 $6\mu\text{W}/\text{cm}$ での最大値を有します、ザルツブルクでは、限界は $0.1\mu\text{W}/\text{cm}^2$ です。ザルツブルクで2000年6月に行なわれた国際会議では、この分野での世界のトップ19名から成る科学者達は、0.1単位で、レベル設定をしました。

47. 2008年9月4日に開かれたEU議会、16対522の投票によって、ICNIRPのガイドラインは古く、時代遅れだと述べています。(Mast Action UK - Legal Services (2010).)

48. 例として、ロシアでは、16歳未満の子供達へ、携帯電話の使用を出来るか限り禁止するように推奨しています。

49. 胎児に関しての、マイクロ波被曝の健康有害性への研究レポートの結果、英国政府は、安全の元で、携帯電話の説明書(マニュアル)にこのように注意書きをしました。妊娠中の女性は、腹部の近くに携帯電話を持ったり、近づけたりするべきではありません。また16歳未満の子供は、腹部の近くに携帯電話を持ち運ぶ事を避けるべきです。(例えばジーンズのポケットの中とか。)また、子供は電話より、メールをした方が良いでしょう。また、もし電話を使うのであるのならば、ハンズフリー機能を使い、頭から離して使う事を薦めています。また、長時間の電話をする場合は、有線の電話です。

また、電話本体から最低でも0.98インチ体を離す事を薦めています。また、大切な電話をする時以外は、マイクロ波被曝を避ける為にも、電話は控えた方がいいと政府から忠告されています。

(See Statz, P., The Cell Phone Handbook: Everything You Wanted to Know About Wireless Telephony (But Didn't Know Whom or What to Ask) (1999)

<http://www.amazon.com/Cell-Phone-Handbook-Everything-Telephony/dp/1890154121>.)

50. この2つの国際組織、NRPB と、ICNIRP の両者からのガイドラインは、純粋にサーマル効果（熱性効果）に基づいています。他の研究書類を観察すると、その他の国はこれらの基準に反対／異議も申しています。ニューメキシコ州、カークフィールド空軍基地の、フィリップス研究所の電磁効果部門／生物学的効果グループのチーフ、クレタス キャンビー博士は、慢性的な、非熱的効果の存在をサポートするための、動物、および、人間の臨床研究の大量のデータはあると言います。これらのデータは、行動、神経、胎児、血液、代謝、内分泌および、免疫の問題全てを含みます。

51. アディー教授、米国科学者アカデミーの私の同士、そして、ロイヤル医学協会の著名な賓客である彼が、自身の研究において、1980年代のロシアでの同様の研究に平行して、彼らは、無線周波数被爆、およびマイクロ波被爆は、成長および白血球細胞の分裂を調節する、酵素システムに影響を与えることが示されています。

52. 軍事諜報部と大学の両方から専門家が世界的に存在し、明らかに、冷戦のはるか前からサーマルレベル以下でのマイクロ波被爆は、人間と他の生物生理機能に影響し、侵害することを示しています。

パルスおよび変調

53. 搬送波を変調することによって、それらに重畳することができる情報（ビデオまたはオーディオデータ）を搬送するために使用することができます。

54. 単語 <パルス化>が使用されていなく、<変調>という言葉に置き換えられているという事で、時には学術的な争論が生じます。理論的に、この二つ言葉の間に大きな違いはありません。

55. 科学者達は、パルス、または変調に、何が構成要因としてあるかについて論争をします。変調は、搬送波の際のデータの重ね合わせであります。また、変調は通常、無限に細い筋道のエネルギーと接続されています。パルスは通常そのようなものに対しての吸着力を持っていません。この区別が、関連している理由を読者は不思議に思うかもしれません。この分野に特化した科学者たちは、

病気や障害を引き起こす可能性があるために、私達の細胞構造内の様々な生物学的反応のための、パルス状のマイクロ波を非難します。

56. さらに、私たちのサイクロトニックと概日リズムとの共振になる際、周波数変調された送信、またはパルスの間には生物学的な違いはありませんと、示唆しています。

(*サイクロトニック 軽元素イオンなどを加速する円形の装置。原子核の人工破壊などに用いる。)

57. トランスミッションは、指向性または等方性であってもよいです。(全方向に平等) アナログ(連続可変量で、例えば、空間位置)、もしくはデジタル(時々、周波数変調と呼ばれます)。しかし、すべての送信が電磁的に伝播されます。核と原子物理学の世界では、電子スイッチは数秒たらずに、何百万もの判断をすることができます、そしてすべての送信機は、光のスピードで進みます。

58. サイドローブの技術を使えば、送信は40%まで増加する可能性があります。これらの送信のいずれかが他の送信波と(例えば、低周波数のラジオ波、ピギーバック効果ができるように(建設的干渉))入射されるかどうか、ベクトル数学は実証することができます。

*ピギーバック 他のリクエストのレスポンスに便乗して、サーバー側の更新を返すデータ転送方式のこと

59. オランダ無線周波数放射線委員会の保健審議会は、300Hz--300GHzまでの周波数帯について、1997年の200ページにおよぶ報告書で述べています。実験データが示しているのは、その物体が、パルス電磁場に曝されたとき、電磁場の効果は、より低い電力密度で起こります。別の言い方をすれば、マイクロ波がパルス変調されていた場合、あなたはより障害と疾患により敏感になります。(*オランダ無線周波数放射線委員会の保健審議会
Radiofrequente elektromagnetische velden (300 Hz – 300 GHz), at 134 (1997).

60. スウェーデンのルンド大学のサルフォード教授は、パルスは、ラットにおける血液/脳関門の透過性を変化させることができることを、2000年に発表した研究で示されています。これは合理的に、人間の脳にも同じことが生じるでしょう。また、脳機能に重大な影響を与える可能性があります。

61. 前述したように、フライブルクアピール（2002年）は、人間は、もはやこれらのパルス状のマイクロ波を回避する事はできませんと公言しています。彼らは、すでに存在する化学/物理的影響のリスクを高めます。体の免疫システムを強圧し、そして、体のまだ機能している調節機能がとまることがあります。妊娠中の女性、子供、青年、高齢者や病人は特に危険にさらされます。

62. 冷戦や、その他の情報源からの集合的知識から、私は大量の情報を蓄積し、パルス変調されたマイクロ波が、私達の細胞生化学を障る方法を説明します。その新たな技術革新で、通信業界を制御不能になるように信じることで、私は産業界と政策立案者が注意すべきことを期待して、インターネット上で私のリストを発表しました。

(The Communications Industry is in the position where it is spiralling out of any person's ability to control it, An open letter from Barrie Trower (undated);

<http://omega.twoday.net/search?qBarry+Trower>; <http://www.mastsanti.org>),

形質導入

63. 私は、このおおよそ20年の間にわたって書かれた、おおよそ数千枚におよぶ研究論文を要約しようと思います。私は、電気と磁気の波の部分が、私たちの体の中に入ると何が起こるかを説明したり、まとめたりします。我々は、水を主体にした体を持つ生き物ですが、これら電磁波の波に気体のように反応してしまいます。波が体を貫通するに従って、電流は、私たちの体の内部で生成され、それが気体のように反応します。波が来て、そして電気が生成されます。その体で生成された電気は、体を通して、アーシングされ、地面へと流れます。また、他の電気の電流と同じように、それは最も抵抗の少ない方向を通ります。残念な事に、私たちの体を通して最も抵抗の少ない方向は、私たちの経路の10パーセントしか関係していないが、それは高速道路M1のように私たちの経路の90%を占有しています。私たちの体の通路、すなわちホルモン、抗体および神経伝達物質は、電荷を運ぶので、行く経路を知っています。ホルモン、抗体および神経伝達物質は、経路地点で反応する反対の電荷が存在するため、経路を「降りる」場所を知っています。電池のプラス、および、マイナスの端子部のように。問題は、もしあなたの体に電気が流れるとしたら、その電気は、ホルモン、抗体または神経伝達物質、または経路の途中で、この電荷を変更することができます。

64. 同じような効果は、これらのホルモン、神経伝達物質、および抗体のいくつかの経路は、化学物質が細胞内膜を通過する細胞の表面です。もし、あなたが我々の体の細胞を考えると、それが脳細胞だろうが、骨の細胞だろうが、その他の細胞だろうが、バッテリーのように、プラスとマイナスの電気を持つ事で、これらの電気の差が、細胞内へ毒を浸透させたり、細胞外へも有毒物質を浸透させます。もし電荷の変更が、細胞の外で起こった場合は、その後、必要な化学物質は中に入らないか、または有毒化学物質が外に出ないことがあります。

子供

65. 教室でのWi-Fiルーター利用は、300メートル離れた携帯電話の基地局よりも、強力なエネルギーになります。教室でWi-Fiを持つ意味がありません、特にマスト細胞に影響がある体の部分には。

66. 私の立場として必要な任務は、私が読んだ世界中の論文を翻訳すること、私は、決して、これまで、どの国で講義をしようが、どのような書面を読もうと、私は、誰一人と子供や胎児に対してのマイクロ波安全性レベルの査読を提出した、勇気のある研究者を知りません。（しかし、一人だけいます。）昨年、私は計6カ国で講演をしました。私は他国にいる間、私と一緒にテレビに出て、子供のためのマイクロ波安全レベルを一緒に引証してくれる科学者、また、それを政府機関と一緒に引証してくれる方を見つけ出す事に挑戦していますが、この12年間誰一人と現れていません。

67. 子供の体は、小さいため、アンテナのように作用し、大人より放射線をより吸収します。そしてまさにその体の大きさは、展開の波長に近似しています。（“人間のアンテナとして機能する”を参照してください：Cohn G, Morris D, Patel S, Tan D, Your Noise is My Command: Sensing Gestures Using the Body as an Antennae, http://research.microsoft.com/en-us/um/redmond/groups/cue/publications/chi2011_rfgestures_cohn.pdf。）

基本的な受信アンテナは、装置として考えることができ、それは、電磁波を電流に変換します。人間の人体は、広い周波数帯にわたり、非常に共振的なアンテナであることがわかります。電気導体のように、電磁場にさらされた場合、

それはアンテナとして機能し、その高さ、姿勢、など、様々な要因によって周波数共振が決定します。

68. 子供たちは、単に小さな大人ではありません。彼らは、生理学的、および神経学的にまだ未熟、未発達です。その体のシステムは、未だ不完全で、形成されていません。マイクロ波放射は、血液脳関門を変化させます、そして毒素が脳内に漏れます。これは、子ども達により簡単に、多くの神経学的、および心理的な問題の原因ともなります。感染から戦う子供の免疫系機能は、発達に18年かかります。さらに、タンパク質の122層- ミエリンは、筋肉や臓器を制御するため、神経系で使用される、電氣的に生成された信号を絶縁するのである。

69. 私はいつも、マイクロ波を浴びされる事を許容するWIFIのある学校では、病気が増加し、行動の質が落ちることであろうと予測しています。私は、これらを確認するために、多くの調査をしています。私が訪問した世界中のWIFIを設置している学校のすべてで、生徒の間で同じ症状を訴えていました。疲労、頭痛、吐き気、胸の痛み、視力の問題など。私は、人はマイクロ波被爆で、心理的な問題が誘発できると主張し、攻撃性の増加、および悪態の誘発、同様に免疫機能の低下など、長く続く風邪や咳、憂鬱感、不安感、悪態、そして自殺傾向や睡眠障害、そして白血病。

70. 子供たちは、学校でマイクロ波により被爆された後、その影響が長く継続されます。通常のマイクロ波送信機、いわゆる携帯電話を使用している子供たちに対しての研究が行なわれました。そこで何が発見されたかという、わずか2分間の携帯電話の使用で子供たちの自然の脳波は、その後2時間ほど混乱していました。これは長期増強現象と呼ばれ、最大で6週間まで持続することがあります。

71. 研究によると、子供と成人女性は、成人男性よりも、マイクロ波照射からの病的要因をより敏感に受けます。(男性より、女性の方が、より複雑で壊れやすいホルモンの機能を持つるため)

72. 少女にとって問題となりえるのは、マイクロ波照射は、卵巣における、遺伝的構造を、損傷することが示されています。女の子は、出生時に自分の卵巣の中に、必要なすべての卵を持って生まれてきます。それらは、まだ未発達の卵なので、成長中に損傷を受けやすいのです。マイクロ波は、遺伝毒性であります。(実験では、携帯電話による、子供達への低レベルマイクロ波被爆は、哺乳動物の卵室で包細胞の生化学を破壊することを示しています。)

したがって、マイクロ波被曝は、卵内の遺伝子構造に悪影響を与える可能性があります。ここでの問題は、そのミトコンドリア DNA は、卵巣内部の遺伝子で、損傷すると取り返しがつかなくなることです。もし、小さな女の子がいて、このメカニズムで彼女の卵子のいずれかが損傷していた場合、その子が生む子の(女の子の場合) 卵子にも遺伝的損傷が遺伝してしまうのです。それは修復が不可能となります。そして、修復不可能なために、その子の子供にも、その遺伝的損傷が永遠と遺伝していきます。図でさらに、この処理を説明するため、補遺'A'として添付しました。

73. 私が、読んだことがある中で最も重要な資料が 博士ゴールズワージーの、弱い電磁界の生物学的効果 (2007年 (<http://tinyurl.com/2nfuj>); also, a.goldsworthy@imperial.ac.uk) の研究であると考えています。彼は、マイクロ波が細胞を破壊するメカニズムを示しているだけでなく、遺伝的に損傷した精子と卵子が、子孫につながる可能性があるかと予測しています。あなたがこのような機械の近くにいる子供達の事を考える時、心配しなくてはいけないことは、ケーブルと端子で代行ができ、それで人体になんの健康/機能低下も防げる。また、むしろ処理は良くなるのに、わざわざ Wi-Fi (ワイヤレス) を使う理由を考える事です。

74.これは、永続的な、低レベルのマイクロ波損傷を表します。また、それはまた、慢性ニトロソ化および酸化ストレスの誘導を含みます。(Warnke, http://www.hese-project.org/de/emf/WissenschaftForschung/Warnke_Dr.%20rer.%20nat._Ulrich/20050219_VortragDrWarnke.pdf (2005) (in German, English translation in progress))

慢性のニトロソ化/酸化ストレスは、体の各細胞の中核となるミトコンドリアを損傷することで知られています。Mitochondriopathy ミトコンドリアファシー(ミトコンドリア DNA の変異による病気/疾患) は、今日の慢性的疾患の多くの原因です。それらは、MS、アルツハイマー、パーキンソン病、線維筋痛症、糖尿病、アテローム性動脈硬化症および肥満などを含みます。

(Kuklinski, http://www.kpu-berlin.de/For_Neu_Kuklinski_1_en.html (2004))

さらに、よりやっかいなのは、慢性のニトロソ化および酸化ストレスが存在する場合、不可逆的なミトコンドリア DNA 損傷は、遅かれ早かれ発生します。(Kuklinski, http://www.kpu-berlin.de/For_Neu_Kuklinski_1_en.html (2004))

ミトコンドリアのDNAは、細胞核内のDNAよりも、ニトロソ化／酸化ストレスによる悪影響が10倍にもなります。一方で、通常の細胞のDNAは修復メカニズムが組み込まれていますが、ミトコンドリアDNAは、その低いヒストンタンパク質含量の性質により、修復が不可能になります。

mitochondriopathy ミトコンドリアファシー（ミトコンドリアDNAの変異による病気／疾患）は、したがって、子供達の卵細胞に、不可逆的な損傷を起し、将来の世代への、取り返しの付かない遺伝的損傷を累積してしまいます。

75. 胎児、子供や妊婦のための、マイクロ波照射の安全基準レベルは、現在のところ存在していません。

電気過敏症

76. 世界保健機関（WHO）は、電気過敏症を認識し、説明をしています。電気過敏症は、ある物が吸収される都度、大きな害を人に与える、食物アレルギーと比較することができます。食品は、世界中の研究から、ある基準の悪い不利な風評／報道を受けた場合、それらはスーパーや売り場の棚から直ぐに消える事であろう。

77. スウェーデンでは、その人口の3.15パーセントの人々は、医学的に、電気過敏症による、障害者として認識され、登録されていることが公開されています。この結果（数字）は、カリフォルニア州でも同様であり、オーストラリアにおいても同様であると考えられています。アイルランドの医師会は、この数字は実際には15パーセントくらいまで高いのではとの認識を持っています。

実験

78. 2008年には、欧州議会は、WHOのガイドラインを無視し、低いレベルでの被爆基準を設定することを促す為にと、その27カ国に手紙を書きました。
(Ries, European Parliament 2004-2009 Commission on the Environment. Public Health and Food Safety, 2008/2211/INI (translation by www.nexyt-up.org) Editor: Frederique Ries (2008)

その返答に WHO 世界保健機構は、人間への健康への影響を確認することが出来るであろう 2015 年まで、人々にマイクロ波放射線の影響についてはコメントしませんと述べました。(WHO は、2009 年にやっと、子供達へのマイクロ波被曝の影響を研究/調査し始めました。) 彼らの研究者は、どれくらいの人々が病気になるのか見ているのです。私達は実験体にされています。

累積投与量

79. 教授ジュスキント、プラウスニツ、アリ、とチェリーとロシアの国際医療委員会は、全員、これらのマイクロ波の累積的影響について警告しています。

(See, Effects of chronic microwave irradiation on mice, S Prausnitz & C Susskind, 1962.)

80. 教授ジュスキントとプラウスニツは、蓄積された細胞レベルの損傷機能は、必ずしも強度に関連していないが、総被曝線量に関連することがあると書きました。

これは驚きではありません。電磁放射線被曝の性質的効果は、累積的であるということです。一例として、我々は、曇りの日に外出しても日焼けはします。ただ時間がかかるだけです。

81.2001 年 1 月に、フランスの保健総局が発表した研究レポート、<携帯電話、それらの基地局 >では、彼らは子ども達の、生涯にわたる累積被曝量に警鐘をならしています。このレポートの本文では、「生物学的効果は、局所的温度の上昇を引き起こさないエネルギーレベルで発生します。」と、興味深い文章で終わります。生物学的効果が危険ではないかもしれないと主張することができるように、この子供へ関連した決定の責任は、学校が親の代わりに決める訳でもなく、父兄でもなく、親が決めるべきです。

82.マウントタボール学校の WIFI フロアプランの見直しに基づいて、学校の子供たちは、各無線デバイスから、子供の近くにおいて、週に 30~40 時間にもの間、一定の出力でのデジタルエンコードされた、パルスの Wi-Fi にさらされることとなります。インフラに加えて、生涯にわたる、子ども達の連続的な累積被曝量が、より高いものとなってしまいます。

83.このケースを観察する限り、私は、WIFIのある教室の相対的被爆累積線量と、それと同じ周波数を発する、もっと一般的に知られている家電製品と比較することにしました。その製品とは、電子レンジです。無線LANと電子レンジオーブンはいずれも、～2.4 GHzの周波数で動作します。平均的に、WIFIルーターは、0.2 J/s [0.2 ワット] のパワーで作動します。そのため、教室で20台用のコンピュータやノートパソコンの送信機を使用している場合、合計した出力パワーは4 J/s [4 ワット] になります。典型的な電子レンジは、(出力) 800 J/s [800 ワット]あります。(マグネトロン入力)は1200 J/s に等しい【1200 ワット】教室では4 J/s[4 ワット] 電子レンジは 800 J/秒[800 ワット]。比率は1対200です。

従って、WIFIが午前と、午後の授業／会議で使用される場合、そしてもし、教室で200秒(4 J/s [4 ワット]) そのいた場合、(800 J/s[800 ワット]) での、電子レンジの内部にいる1秒に等しいのです。それは、学校のある日には、子供や大人は、電子レンジの内部に2分間、週換算ですと10分、電子レンジの内部にいるのと同じ被爆量を受ける事になるのです。

84.累積投与量について、最終的な言及として、長期的低被爆の方が、短期的な高被爆よりも危険であることを強調しなければなりません。一例として、私は論文に公表した。

(科学者アンドレア・クライン氏との共著)、
, Wireless Laptops and Their Transmitters Using Microwaves in Schools,
<http://www.mastsanity.org/wifi/17/154-wireless-laptops-and-their-transmitters-using-microwaves-in-schools-a-report-by-barrie-trower.html>,

永続的な、低レベルのマイクロ波被爆は、慢性ニトロソ化/酸化ストレスを誘発する可能性があります。したがって、ミトコンドリア DNA に損傷を与えます。

結論

85. 簡単な解決策があります。インターネット回線には、ケーブル／プラグ、光ファイバケーブルなどを使用することです。

86.この証拠のすべては、物理的、精神的に指している。また、長期的に長く続く障害(癌及び変異体新生児を含みます)を止める為にも、わずか数メートルのケーブルとプラグを利用するだけの価値は、正直、次の世代のためにも十分値します。図に示すように、低レベルの比熱性以下のマイクロ波の危険性は、

すでに50年間以上も前から、政府に知られています。私は、1960年代初頭に軍事（イギリス）によりマイクロ波技術の教育／訓練を受けましたが、その時点で既に、その危険性を説明／指示されていました。何も、突然マイクロ波が突然になったことなどは、決してありません。

87. 低レベルマイクロ波被爆の悪影響の根拠は、現在強く、新しい研究の度に、それは強くなりつつあります。

88. 私は、あなたに訪ねたいのですが、1950年代に、ある飲み物が、癌および他の疾患を誘発すると報告されたとします。そして、数え切れないほどのレポートや、疫学のおよび、毒物学的研究や専門家の団体が、これらのレポートは正しいことが後々報告され続けてられた場合、あなたは、その飲み物をあなたの子供に与えますか？まだ人生がこれからだっていう事を知りながら。それでは何が違うのでしょうか？それは簡単です。この商品、パルス変調マイクロ波放射WIFIは地球上で最も強力な産業によって支えられ、賄われています。これらは明らかに、この製品が安全であることを証明する必要がない程の産業であります。（製薬会社とは異なり）信じられないことに、社会はむしろそれが無いことを証明するように言われています！そこから出来ることは、あなたの疾病、癌、白血病、早期死亡、などの障害のリストを裁判所に持ち、この業界を訴えることです。

89. 関連する科学コミュニティ内でも、ラジオ波とマイクロ波の被爆での、はるか低レベルでも、一般的に多くの生体効果や健康への悪影響があることを認めています。いくつかの効果は、既存のガイドラインの数千倍以下でも起こることが示されています。

90. 私の見解では、ポータランド公立学校でのWIFIの使用が、AHMを引き起こす原因であり、そうあり続ける事でしょう。学生達、教職員達への健康への悪影響などを考慮し、直ちに中止すべきでしょう。

12月21日 2011年

バリー・トゥロワー

